応化会会報

けみすと

第 47 号

大阪公立大学応化会

令和 7 年 4 月

目次

ご挨拶 …… 1
教室だより …… 3
辰巳砂昌弘教授 最終講義 …… 5
松本章一教授 最終講義 …… 7
オープンキャンパス …… 8
応化杯ソフトボール大会 …… 9
令和 6 年度白鷺賞・応化賞 …… 10
令和 6 年度受賞(章)者紹介 …… 14
令和 6 年度修了・卒業生の進路 …… 19
クラス会便り …… 20
応用化学科の教員構成 …… 21
令和 6 年度応化会役員 …… 22
令和 5 年度応化会会計・監査報告 …… 24
応化会会則・会報“けみすと”発行規約 …… 25
会報“けみすと”の号数と発行年との対応表 …… 27
会員の皆様へ
(1. 電子化のご案内と電子メール連絡のお願い, 2. 会員情報の変更の連絡,
3. 会員情報の利用, 4. 会報“けみすと”の原稿の募集) …… 28
編集後記 …… 30

ご挨拶

令和 6 年度応化会会長
株式会社堀場製作所
半田　慶一（工応　56）

応化会の皆さまにおかれましては、益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

同窓会の活動に対して、常日頃から深いご理解と温かいご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。会報『けみすと』第 47 号の刊行に際し、一言ご挨拶申し上げます。

今年は、何と言いましても、大阪万博（Expo2025）が 4 月 13 日から開幕します、昨年よりインバウンドの再来でコロナ前の活気を超えようとする観光産業の勢いの中、どのような社会現象が起きるか誰にも予想できない年になるのではと思います。また、昨年末には、アメリカ合衆国大統領にトランプ氏が再選され、今年 1 月に就任後、初日から大統領令を次々と発令して、世間を騒がせています。

明るい話としては、今年は、コロナが明けて 3 年目、昨年は株価が上昇し日経平均 4 万円に達し、経済界も変化の年になると大いに期待されています。

振り返ってみると、昨年は、スポーツ界での日本人の活躍が目立った年になりました。パリオリンピックでは、体操日本が土壇場での逆転金メダルを獲得し、初出場の岡慎之助選手が個人総合で金メダルを獲得するなど、素晴らしい成果を上げました。陸上では、女子やり投げで日本人では史上初の金メダルを北口榛花選手が獲得し、スケートボードでは、男子ストリートで堀米雄斗選手が金メダルを獲得するなど、数々の素晴らしい試合に興奮した毎日を思い出します。

野球では、大谷翔平選手が移籍したドジャースで新記録を樹立し、54 本塁打と 59 盗塁という前人未到の「50-50」を達成しました。さらに、日本人初のトリプルスリー、史上初となる 3 度目の満票での MVP 受賞など、次々と新記録を打ち立て、移籍後 1 年目にしてチーム成績でもワールドシリーズ制覇に大きく貢献しました。

どれも素晴らしいことで、この日本人の秘めたる凄さはどこから来るのでしょうか。こうした成績は一朝一夕でできるものではなく、皆、子供時代から何らかのきっかけでそれぞれのスポーツが好きになり、興味・好奇心を覚えて、そこに楽しさが加わり大きな力になっていると思います。ただ、それだけではないような気もします。悠久の時代から日本人として備わってきた DNA がなせる業では

ないでしょうか。

以前にも触れたことがありますが、「心技体」という言葉が浮かんできます。「心技体」は精神力、体力、技術のことを表した言葉で、三つが揃うと素晴らしいスポーツマンと言われます。遡ると武道、武士道に繋がると勝手な解釈をしたりしていますが、これはスポーツだけに限ったことではなく、今後の日本人の各界での活躍が非常に楽しみと思ってこれからも注目しましょう。

世界に目を向けると、年初から、トランプ大統領が世界中をかき混ぜています、考えようによっては、化学反応と同じように、一度遷移状態に持っていき基底状態に辿り着く仕組みと同じではないかと考えます。今まで誰もが提案しても実行に移せなかったことをトランプ大統領は行っている、きっと本人も無茶なことを言っていると自覚していることを願いますが、今や世界が彼の一挙一動に注目しているのは事実です。これから 4 年の任期を迎えますが、世界の動きに目が離せない現状が感じられます。

さて私たち科学の分野でも、昨年は AI 元年ともいえるほど、ChatGPT という身近に使える AI を皆が使い始める年になりました。また、生成 AI に至っては、従来の AI と違って新たな情報を「生成」します、つまりは、人間にとって代わるツールに成長する可能性があります。これは、まさに、私たちが子供時代にテレビの中で見た鉄腕アトムのような SF 漫画に描かれていた世界が、もうそこに近い将来、現実化するのではないかとさえ思えてきます。今年 4 月から大阪で開催される Expo2025 でも、アンドロイドの人型ロボットがデビューすると聞いていますので、確実に現実化していると言えます。

政治は、アナログの世界ですが、世界は、デジタルに加速している。この世の中を各年代層が如何に生きていくかを考えさせられる 2025 年になると思います、大阪公立大学も共同でパビリオン出展すると聞いていますので、是非とも会期中に足を延ばして近未来をご自分の目で見て、触って、確かめるということを実行してみて、独自の創造性を深めていってほしいと思います。

2025 年度は、大阪公立大学設立から早くも 4 年目となり、府大から公立大になって初めての一期生が応化会に加わります。この若い力とともに、これからも応化会の発展を願いつつ、今後も皆様方の益々のご発展とご健勝をお祈り申し上げます。

教室だより

2024（令和 6）年度応用化学分野長　松岡　雅也
（令和 6 年度応化会副会長、物理化学研究グループ）

応化会会員の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素より本学並びに応用化学教室の発展に対し温かいご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、大阪公立大学が 2022 年の大学統合により開学してから、早くも 3 年が経過いたしました。開学当初はオミクロン株による新型コロナウイルス感染症が猛威を振るっておりましたが、現在では感染症法上の分類も第 5 類となり、今年度は講義・演習・実験など、すべての教育活動を対面形式で支障なく実施することができております。

こうした中、2025 年 3 月 24 日に執り行われた学位授与式の後、応化会の半田会長および 4 回生担任の久本教授のご尽力により、コロナ禍以降 6 年ぶりとなる「応用化学教室卒業・修了記念祝賀会」を開催することができました。卒業・修了生にとって、また彼らを送り出す教員にとっても、心に残る晴れの日となったことと存じます。本祝賀会の実現にあたり、応化会より多大なるご支援を賜りましたこと、改めて厚く御礼申し上げます。

また、2025 年 4 月には、大阪公立大学として初めて入学した応用化学科 1 期生が、いよいよ 4 回生となります。新大学の応用化学科には、中期日程入試に加えて、前期日程や推薦入試を経て入学した学生が在籍しており、近年では全国各地の高専や大学から応用化学科への 3 年次編入を志願する学生が増加しております。こうした多様な背景を持つ学生たちが、若い感性と、化学に対する熱意を持って研究室に配属され、新しいサイエンスに繋がる風を吹き込んでくれることを期待しています。

次に、教員の異動等についてご報告申し上げます。2024 年 6 月には、生体高分子化学研究 G の床波志保准教授が、本学工学研究科マテリアル工学分野の准教授として異動されました。また、2025 年 4 月には、有機機能化学研究 G の鈴木直弥助教が、岐阜大学糖鎖生命コア研究所に特任助教として赴任される予定です。お二人の先生方の新天地でのご活躍を心よりお祈り申し上げます。さらに、2025 年 3 月末をもって、合成高分子化学研究 G の松本章一教授が定年退職され、4 月から名誉教授とな

れます。松本先生には、2013 年のご着任以来、研究・教育の両面において尽力いただき、応用化学教室の発展に大きく貢献いただきました。誠にありがとうございました。また同じく 2025 年 3 月末には、無機化学研究 G で約 40 年にわたり教育・研究に携わってこられ、2019 年から大阪府立大学学長、そして 2022 年から大阪公立大学学長を務めてこられた辰巳砂昌弘先生が退職されます。全固体二次電池の研究を先導される一方で、大学統合を含む激動の 6 年間にわたり大学運営のかじ取りを担っていただきましたことに、深く感謝申し上げます。これら両先生のご退職に際し、これまで応用化学教室へ注がれたご尽力に心より感謝申し上げるとともに、今後ますますのご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

昇任および着任についてもご報告いたします。2025 年 4 月 1 日付で、表面計測化学研究 G の定永靖宗准教授が教授に昇任され、新設される気相反応化学研究 G を担当いただくこととなりました。また、有機機能化学研究 G には、加藤真一郎准教授が新たに着任され、八木教授とともに有機化学分野の研究・教育を推進されます。両先生には思う存分に研究を発展させ、応用化学教室のさらなる発展のためにご尽力頂ければと思います。

次に、新キャンパス・新棟に関するご報告です。2025 年度後期より、新たに完成した森之宮キャンパスにて、本学の基幹教育が開始されます。今後は全学部の 1 年次教育を森之宮で実施し、その後に各学部のキャンパスへ進む形となります。これに伴い、教員や TA のキャンパス間移動が生じるほか、応用化学科の 1 年次専門科目も森之宮での実施に移行するため、現在、教育内容の見直しと円滑な運営に向けた準備を進めているところです。さらに、工学部の中百舌鳥キャンパス集約に向け、2024 年 4 月には B5 棟東隣に新たな工学新棟（B7 棟）が完成し、複数の工学部学科の研究室が移転いました。また、2025 年 4 月には、白鷺門近くに「イノベーションアカデミー スマートエネルギー棟」が開設され、産学官民が連携・協働するリビングラボとして、多様なステークホルダーの交流と共創の場として活用される予定です。同窓生の皆様にもぜひこの施設を活用いただき、今後、産学連携・協業の機会がさらに広がることを期待しております。

このように、大学を取り巻く教育・研究環境は日々変化を続けておりますが、応用化学教室では今後も教員・学生が一丸となって教育・研究に取り組んでまいります。今後とも変わらぬご支援、ご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

最後になりますが、応化会会員の皆様のますますのご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

辰巳砂 昌弘教授 最終講義

日時： 2025 年 3 月 14 日（金）
会場： U ホール白鷺
演題： 大阪「公立」大学での 45 年を振り返って
－無機材料科学研究を通した人材の育成－

無機化学研究グループ　林 晃敏

辰巳砂昌弘先生は、1980 年に大阪府立大学工学部応用化学科の助手に着任して以来、40 年以上の長きにわたり、准教授、教授として無機化学研究グループ（旧第 2 講座）の教育・研究に携わってこられました。2019 年度からは大阪府立大学長、2022 年度には大阪公立大学の初代学長として、大学統合前後の慌ただしい時期に本学の舵取りをされました。2024 年度をもって任期満了により学長を退任される直前の 2025 年 3 月 14 日（金）の午後、中百舌鳥キャンパス U ホール白鷺において、辰巳砂先生の最終講義が行われました。会場には研究室の卒業生をはじめ、本学の学生や教職員など約 400 名が集いました。

最終講義のタイトルは「大阪「公立」大学での 45 年を振り返ってー無機材料科学研究を通した人財の育成ー」でした。府大に着任した際のエピソードから、研究室での教員や学生との想い出、アメリカでの留学経験、研究テーマの変遷、国家プロジェクトにおける人とのつながり、学長としての取り組みなど、その時々で先生が考え、感じたことを包み隠さずお話しいただきました。「大学教員の仕事はぬるま湯」との恩師の言葉を反面教師として捉えて、論文発表や学会発表などの業績管理表（星取り表）をつけて自分にプレッシャーを課して計画的に業績を積み上げてこられたことや、「人との縁」が将来的にどこかでつながって自身のサポーターとして力になってくれたことなど、先生の経験談はとても説得力のあるものでした。最後の締めくくりとして、学位記授与式式辞で学長として卒業生に贈っている 5 つのメッセージ「夢を持つこと」「諦めないこと」「素直であること」「誠実であること」「出会いを大切にすること」をご披露いただきました。また大阪公立大学を発展させるためには大学の構成員の「調和」が重要であることを強調されました。当日の夕方には研究室の同窓会を開催し、約 150 名の卒業生・修了生が集まって先生のご退職を盛大にお祝いすることができました。

大阪公立大学
Osaka Metropolitan University
大阪「公立」大学での45年を振り返って
ー 無機材料科学研究を通した人財の育成 ー
© Osaka Metropolitan University All Rights Reserved.
大阪公立大学
辰巳砂 昌弘
2025年3月14日（金）
最終講義

松本 章一教授 最終講義

日時： 2025 年 3 月 17 日（月）
会場： B1 棟 2 階東大講義室
演題： 「今ここにいるわたし」

合成高分子化学研究グループ　鈴木 祥仁

2025 年 3 月の定年退職を記念し、松本章一教授の最終講義が実施された。松本教授がこれまで所属してきた大阪市立大学、大阪府立大学、大阪公立大学の同窓生や同僚に加え、学協会関係者、企業の共同研究者など、多くの関係者が集まった。講義は対面とオンラインのハイブリッド形式で行われ、対面で 119 名、オンラインで 34 名が参加した。

来年度より博士後期課程に進学する荒岸 和真さんより代表して花束が贈呈された。

はじめに、応用化学分野の松岡雅也分野長が松本教授の経歴を紹介し、その後 90 分間の最終講義が行われた。講義のタイトルは「今ここにいるわたし」。「間違いなく、今というこの時、この場所にいる」自分は、過去に選んできた道の結果であり、この先の人生もまた様々な可能性がある－－ そんな意味が込められている。講演のスライドには、その思いを表現した松本教授自作のロゴが含まれていた。ロゴには、虹色の線が交錯しながらややぼやけた現在へ収束し、まだ見ぬ未来へ向かって灰色の線が伸びていくデザインが施されていた。講義では、松本教授が取り組んできた様々な研究テーマの相関図をもとに、過去から現在に至る研究の歴史を振り返った。その中で感じた葛藤や、選ばなかった他の可能性についても言及した。最後に、松本教授は「一番得意なことを仕事にし、一番好きなことを趣味にするのがいい」というメッセージを送った。質疑応答では、学部 3 回生の学生から「なぜ化学を選んだのか？」という質問があった。それに対し、松本教授は「今となっては難しい質問だが、高校生の時、化学の点数が良かったことでクラスの女の子に『松本君すごーい』と言われたのがきっかけかもしれない」とユーモアを交えて回答し、会場は笑いに包まれた。

オープンキャンパス

令和 6 年度オープンキャンパス実行委員　本橋　宏大

2024 年 8 月 10、11 日に大阪公立大学工学部オープンキャンパスが開催されました。今年度も昨年度と同様に事前申込制での開催となりました。午前の部では U ホール白鷺で工学部の説明会がありました。工学部の説明会では、教員による各学部や入試に関する説明と、在学生による学生生活の紹介が行われました。午後の部の応用化学科のプログラムでは、学科説明会を松岡先生にご担当いただきました。その後、以下の体験実験を行いました。10 日：「終わりのない反応？–いつまで続くのか。振動反応の不思議–」、「燃料電池の基礎と実験」（知久先生、鈴木祥先生、渡邊資生さん、橋本和真さん、荒岸和真さん、薄川翔太さん）11 日：「インテリジェント・マテリアルの世界 ～刺激に応答するゲルを作ってみよう～」、「クロマトグラフィーで有機物質を取り出そう」（堀内先生、松井先生、高山純さん、小川智広さん、渡久山裕亮さん）。体験実験では化学の楽しさだけでなく、在校生を通して応用化学科の魅力を伝えることができたと思います。

ご協力いただきました先生方、学生の皆さんのおかげをもちまして、多くの参加者に満足していただけました。今年度も応用化学科のプログラムでは、事前申込で定員数を大幅に上回る申込があり、人気の高さが窺えました。オープンキャンパスを通じて、本学、本学科に入学してきてくれることを願っております。

応化杯ソフトボール大会

応用化学分野　樋口　栄次

9 月 3 日（火）10 時より、白鷺公園で応化杯ソフトボール大会が開催されました。当日は天候にも恵まれ、学生の皆さんだけで無く、参加された教員の皆さんも普段の研究生活から離れ、のびのびとプレーしていました。また、どの研究グループも優勝を目指して熱闘を繰り広げていました。

今年度の優勝は、有機機能化学研究グループでした。おめでとうございます。

2 位は昨年度に続いての連覇はなりませんでしたが、電気化学研究グループでした。3 位は表面計測化学研究グループでした。

また、今回はグラウンドの予約が 19 時まで取れたことから、最後に「学生有志」と「教員有志」との対戦が行われました。白熱した試合が行われ、教員有志チームの勝利で幕を閉じました。

本企画・運営は、生体高分子化学研究グループの教員と各研究グループから選出された代表の学生によって行われました。お陰様で教員、学生を含め参加者全員が存分に楽しむことができました。

ご協力頂きました皆さまにこの場を借りて厚く御礼申し上げます。また、学生主体の行事にご理解を頂きました教員の皆様にも御礼申し上げます。

令和 6 年度白鷺賞

白鷺賞は、学域卒業生の中から学業やクラブ活動で優秀な成績を修め、在学生の規範となる卒業生に与えられる賞で、本学の各課程から 1 名ずつ選出され、学位記授与式（修了・卒業式）において表彰されます。

2024 年度（令和 6 年度）における応用化学課程の受賞者は、中谷健人さんでした。

令和 6 年度応化賞

2003（平成 15）年度より、修士論文発表会ならびに卒業論文発表会における優秀発表者に応化賞が授与されています。

去る 2 月 17 日と 18 日に行われた博士前期課程の修士論文発表会においては、全教員による審査の結果、無機・物理化学系からは平岡大幹さん（無機化学研究グループ）と吉田侃生さん（電気化学研究グループ）の 2 名が、有機・高分子化学系からは弓山玲未さん（生体高分子化学研究グループ）と吉松依里佳さん（生体高分子化学研究グループ）の 2 名がそれぞれ選ばれました。

また、2 月 27 日に行われた 4 回生の卒業論文発表会においては、全教員による審査の結果、無機・物理化学系からは榑林美優さん（無機化学研究グループ）と古河美帆さん（表面計測化学研究グループ）の 2 名が、有機・高分子化学系からは瀧内大雅さん（生体高分子化学研究グループ）と添川　響さん（生体高分子化学研究グループ）の 2 名がそれぞれ選ばれました。

応化賞は、3 月 24 日（月）の学位記授与式後に、分野長の松岡教授から各人に授与されました。

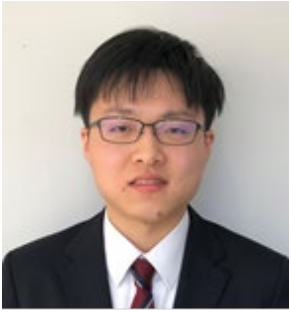
分野長（松岡教授）と応化賞受賞者（M2）

分野長（松岡教授）と白鷺賞・応化賞受賞者（B4）

修士論文タイトル（無機・物理化学系）：

平岡 大幹　「$LiNiO_2$–Li_2MnO_3–Li_2SO_4 系アモルファスベース正極活物質の開発」

吉田 侃生　「カードランヒドロゲル電解質膜の新規作製および亜鉛負極二次電池への応用」



平岡　大幹 さん

吉田　侃生 さん

修士論文タイトル（有機・高分子化学系）：

弓山 玲未　「弱酸性環境に応答して自己崩壊するポリイオンコンプレックスミセルの調製」

吉松 依里佳　「アルブミンに対する認識および蛍光応答可能な界面をもつ高分子ナノゲルの合成」

弓山　玲未 さん

吉松　依里佳 さん

卒業論文タイトル（無機・物理化学系）：

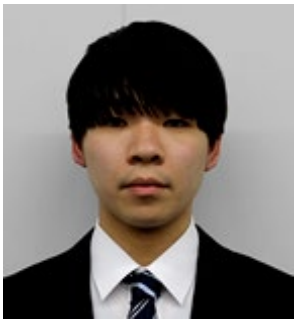
榑林 美優 「Na 過剰 Na-Fe-Mn-O 系正極活物質の開発」
古河 美帆 「$FeCl_3$/NaCl 混合物表面上でのオゾンとの不均一反応による対流圏塩素分子生成」

榑林　美優 さん

古河　美帆 さん

卒業論文タイトル（有機・高分子化学系）：

瀧内 大雅 「ドミノ重合による側鎖機能化された還元刺激分解性高分子の合成」
添川 響 「アミノ酸誘導体の界面光逐次重合による光分解性高分子カプセルの調製」



瀧内　大雅 さん

添川　響 さん

令和 6 年度受賞(章)者紹介

・**河野歩夢（工応博士前期 2 年）**
第 84 回分析化学討論会 若手ポスター発表賞
（2024 年 5 月 19 日）
「アプタマー電気泳動選抜用ハイドロゲル部分充填マイクロチップの開発」

・**安田悠一郎（工応博士前期 2 年）**
第 84 回分析化学討論会 若手ポスター発表賞
（2024 年 5 月 19 日）
「ナノエマルション型オプトード表面への分子認識機能付与の基礎検討」

・ **渡久山裕亮（工応博士前期 1 年）**
第 48 回有機電子移動化学討論会 優秀ポスター賞
（2024 年 6 月 22 日）
「光電子移動機構を含む環化–脱水素化を利用したチオフェン縮合多環芳香族化合物の合成」

・**山下美里（工応博士前期 1 年）**
第 70 回高分子研究発表会 エクセレントポスター賞
（2024 年 7 月 12 日）
「光環化付加重合の可逆性を利用した分解性高分子カプセルの合成」

・ **鈴木祥仁（応現職）**
第 70 回高分子研究発表会 ヤングサイエンティスト講演賞
（2024 年 7 月 12 日）
「重合に誘起される不均一性と化学反応速度」

・ **河野歩夢（工応博士前期 2 年）**
日本分析化学会第 18 回近畿支部夏季セミナー 特別ポスター賞
（2024 年 8 月 6 日）
「アプタマー電気泳動選抜用ハイドロゲル部分充填マイクロチップの開発」

・ **住吉康平（工応博士前期 1 年）**
日本分析化学会第 18 回近畿支部夏季セミナー 特別ポスター賞
（2024 年 8 月 6 日）
「ナノポアサイズ制御フィルターを用いたエクソソーム分級デバイスの開発」

・ **谷口遼太（工応博士前期 1 年）**
日本分析化学会第 18 回近畿支部夏季セミナー 特別ポスター賞
（2024 年 8 月 6 日）
「細胞外小胞濃縮・解析用アプタマー修飾アルギン酸ゲルビーズの開発」

・ **山中里奈（工応博士前期 2 年）**
化学電池材料研究会第 52 回講演会・夏の学校 優秀ポスター賞
（2024 年 8 月 7 日）
「還元安定性を有するナトリウムイオン伝導性 Na–Al–S 系電解質の作製」

・ **仲尾健宏（工応博士前期 2 年）**
第 18 回日本セラミックス協会関西支部学術講演会 優秀学生講演賞
（2024 年 8 月 9 日）
「メカノケミカル法を用いたカリウムイオン伝導体 $K_{2-x}Zr_{1-x}Ta_xCl_6$ 作製」

・ **岩本空果（工応博士前期 2 年）**
RSC-JAIMA Symposium on Analytical Chemistry 2024 Analyst Poster Award
（2024 年 9 月 6 日）
「Fundamental investigation on fluorous nanoemulsion optodes for highly selective PFOS sensing」

・ **重野天郁（工応博士前期 2 年）**
The 14th Japan-France Joint Seminar on Batteries BEST POSTER AWARD
（2024 年 9 月 7 日）
「Pre-sodiated NaxP as Electrode Materials for All-Solid-State Sodium Secondary Batteries」

・ **橋井貴士（工応博士前期 1 年）**
日本セラミックス協会第 37 回秋季シンポジウム「『エネルギー変換・貯蔵・輸送セラミックス材料の基礎と応用』セッション 最優秀プレゼンテーション賞
（2024 年 9 月 24 日）
「水を反応媒に用いた $Li_{10}GeP_2S_{12}$ 電解質の作製」

・**谷口遼太（工応博士前期 1 年）**
第 44 回キャピラリー電気泳動シンポジウム（SCE2024） 優秀ポスター賞
（2024 年 10 月 11 日）
「細胞外小胞濃縮・解析用アプタマー修飾アルギン酸ゲルビーズの開発」

・ **薄川翔太（工応博士前期 1 年）**
JSAMA-10 Shanghai 2024 The Best Poster Presentation Award
（2024 年 10 月 31 日）
「Investigating the Melting Behavior of Polymer Crystals with Extended Chains Prepared by Topochemical Polymerization」

・ **山下美里（工応博士前期 1 年）**
プラスチック成形加工学会 第 32 回秋季大会 ポスター賞
（2024 年 11 月 27 日）
「界面光環化付加重合の可逆性を利用した分解性高分子微粒子の合成」

・ **入井 駿（工応博士後期 2 年）**
5th UOH-FZU-OMU Joint International Symposium Board Member Selected Award
（2024 年 11 月 27 日）
「Crystal Structures and Piezofluorochromism of Organoboron Complexes with the [2.2] Paracyclophane Moiety」

・ **北山雄己哉（応現職）**
公益財団法人 コーセーコスメトロジー研究財団 コーセーコスメトロジー奨励賞
（2024 年 11 月 28 日）

・ **和田佳成太（工応博士前期 1 年）**
第 14 回 CSJ 化学フェスタ 2024 優秀ポスター発表賞
（2024 年 11 月 29 日）
「6 つの CH3S 基が置換した「一電子 σ 結合」性ラジカルカチオンの特異な電子状態」

・ **河中弥哉（学部 4 年）**
第 3 回関西電気化学研究会 関西電気化学奨励賞
（2024 年 11 月 30 日）
「テトラゾリウム塩の電気化学活性を利用した生菌計数法の開発」

・ **橋井貴士（工応博士後期 1 年）**
第 3 回関西電気化学研究会 関西電気化学奨励賞
（2024 年 11 月 30 日）
「水溶液プロセスで合成した $Li_{10}GeP_2S_{12}$ 電解質のキャラクタリゼーション」

・ **平岡大幹（工応博士後期 2 年）**
第 3 回関西電気化学研究会 関西電気化学奨励賞
（2024 年 11 月 30 日）
「Li_2O と Li_2SO_4 を複合化した Co-free アモルファスベース正極活物質の開発」

・ **東田知紘（工応博士後期 2 年）**
第 3 回関西電気化学研究会 関西電気化学奨励賞
（2024 年 11 月 30 日）
「アルカリ水溶液中 Ru-lanthanoid 系酸化物電極の水素発生反応における触媒活性と耐久性の評価」

・ **山中里奈（工応博士前期 2 年）**
2024 年度大阪公立大学女性研究者表彰制度【岡村賞】 大学院生奨励賞
（2024 年 12 月 2 日）

・ **荒岸和真（工応博士前期 2 年）**
第 20 回 日本接着学会関西支部 若手の会 ベストポスター賞
（2024 年 12 月 9 日）
「エポキシモノリスの連続孔にゴム成分を充填した複合材料の機械特性」

・**井上博史（応現職）**
電気化学会電解科学技術委員会 工業電解業績賞
（2024 年 12 月 12 日）

・**赤井茉裕（工応博士前期 2 年）**
ニューセラミックス懇話会第 258 回特別研究会 優秀ポスター賞
（2024 年 12 月 13 日）
「$NaTaCl_6$-NaCl 系塩化物電解質の作製と評価」

・ **松尾野々果（学部 4 年）**
2024 年度大気環境学会近畿支部研究発表会 ベストプレゼン賞
（2024 年 12 月 26 日）
「オゾン生成速度と生成感度の実測に基づく大阪市内でオゾンを生成しやすい大気質の評価」

令和 6 年度修了・卒業生の進路

博士後期（博士）課程修了者

主な就職先：NOK 株式会社、産業技術総合研究所(2 名)、
TOPPAN フォトマスク、その他

修士前期（修士）課程修了者

主な就職先： artience、IQVIA サービシーズジャパン、ADEKA、味の素、
イーピーエス、AGC、ENEOS、オハラ、大阪ガス、
神戸製鋼所、三洋化成工業、システナ、シスメックス、
信越化学工業、住友電気工業 (2 名)、積水化学工業、
ダイキン工業、ダイダン、大日本印刷、
中部電力パワーグリッド、東京応化工業、TOYO Tire、
トヨタ自動車、東レ、日油、ニプロ、日東電工、日本 IBM、
日本イーライリリー、日本触媒 (2 名)、日本電気硝子、
パナソニックエナジー(3 名)、
富士フイルムビジネスイノベーション、堀場エステック、
本田技研工業、三井化学、三菱重工業、村田製作所、
森永乳業、その他
博士後期課程進学（4 名）

学域卒業者

主な就職先：京セラドキュメントソリューションズ、クボタ、
住友精密工業、全日本空輸、デンソー、ヤマハ発動機、
その他
※多くは本学大学院工学研究科に進学

クラス会便り

府大電気化学同窓会兼井上博史先生の還暦お祝い
～同窓会ご参加のすすめ～

開催日：2024 年 7 月 13 日
場　所：なんばパークス「美健ごちそうビュッフェ 花も実も」
参加者：61 名
同窓会会長：三邉敏博

令和 6 年 7 月 13 日(土)12 時 30 分より大阪のなんばパークス 6 階の「美健ごちそうビュッフェ花も実も」で同窓会を井上博史先生の還暦のお祝い兼ねて開催しました。令和 6 年 3 月で井上先生は還暦を迎えられ、60 名を超える方々がご参加され大盛況でした。今回は福本幸男先生もご来訪され、それに伴い数名のお世話になられた先輩方もご一緒にお会いしました。コロナ禍が落ち着いてから 2 回目の会ですが、かなり世代が広がり、しかも、世代交代を思わせるお若い方のご参加が目立ちました。今回は直前のご事情により珍しく岩倉千秋先生はおこしにならなかったです。令和 7 年 5 月 24 日(土)に予定しております次回はご参加なされると思います。時が流れることが思いのほか速いと感じられておられる方々も少なくないと思います。松岡政夫先生及び古川直治先生は残念ながらすでにお亡くなりになられ、ご冥福をお祈りいたします。

皆様、井上先生及び福本先生にもちろん感謝の意を込めて足を運ばれたと考えられますが、それ以外に様々な思いがあったと思います。過去、現在及び将来のことも語り合ったりされたのではないでしょうか。蔵王へよくスキーへ行かれた福本先生からお話をうかがい、私も今年度冬季に蔵王で滑って参りました。

この会の準備に樋口栄次先生及び研究室の皆様の過大なご協力により無事に終わりましたことを感謝いたします。次回は、2025 年（令和 7 年）5 月 24 日（土）の正午からなんば付近で開催いたします。井上先生はもちろん岩倉先生、福本先生、故松岡先生、故古川先生及び故林先生にご指導を受けた方々、いつもよくご参加される方から初めての方も含めまして、電気化学同窓会に是非ご出席くださいますようお願い申し上げます。

応用化学科の教員構成

（令和 6 年度）

無機・物理化学系

分析化学研究グループ(G1)
教　授 久本　秀明
准教授 遠藤　達郎

無機化学研究グループ(G2)
教　授 林　　晃敏（工応 H07）
准教授 作田　　敦（工機 H18）
助　教 本橋　宏大

物理化学研究グループ(G3)
教　授 松岡　雅也（工応 H04）
准教授 竹内　雅人（工応 H09）
准教授 亀川　　孝（工応 H15）
准教授 堀内　　悠

電気化学研究グループ(G4)
教　授 井上　博史
准教授 樋口　栄次（博応 H14）
准教授 知久　昌信

表面計測化学研究グループ(G9)
教　授 椎木　　弘
准教授 定永　靖宗

有機・高分子化学系

物性有機化学研究グループ(G5)
教　授 池田　　浩
准教授 松井　康哲（工応 H20）

有機機能化学研究グループ(G6)
教　授 八木　繁幸（工応 H03）
准教授 前田　壮志（工応 H13）
准教授 小玉　晋太朗（修応 H20）
助　教 鈴木　直弥

合成高分子化学研究グループ(G7)
教　授 松本　章一
准教授 岡村　晴之
准教授 鈴木　祥仁

生体高分子化学研究グループ(G8)
教　授 原田　敦史
准教授 北山　雄己哉
准教授 床波　志保（博機 H18）

令和 6 年度応化会役員

会長　　半田 慶一（工応 56）
副会長　　松岡 雅也（令和 6 年度 分野長）

常任幹事

林　晃敏（工応 H07/G2）
松岡雅也（工応 H04/G3）
井上博史（現職/G4）
池田　浩（現職/G5）
八木繁幸（工応 H03/G6）
松本章一（現職/G7）
原田敦史（現職/G8）
遠藤達郎（現職）
作田　敦（工機 H18）
本橋宏大（現職）
竹内雅人（工応 H09）
亀川　孝（工応 H15）
堀内　悠（現職）
樋口栄次（博応 H14）
知久昌信（現職）
定永靖宗（現職）
松井康哲（工応 H20）
前田壮志（工応 H13）
鈴木直弥（現職）
岡村晴之（現職）
鈴木祥仁（現職）
小玉晋太朗（修応 H20）
北山雄己哉（現職）
中西三郎（修応 41）
八尾俊男（工応 43）
白井正充（工応 46）
安保正一（修応 47）
中澄博行（工応 48）
松川公洋（工応 53）
陶山寛志（工応 59）
松田厚範（工応 60）
忠永清治（工応 H02）
浅川朋命（工応 H10）
岩倉千秋（応旧職）
水野一彦（応旧職）
坂東　博（応旧職）
長岡　勉（応旧職）
辰巳砂昌弘（応旧職）
竹中規訓（応旧職）
園田素啓（応旧職）
小川昭弥（応旧職）
末吉健志（応旧職）
児島千恵（修機 H13）
弓場英司（工機 H18）
床波志保（博機 H18）
野元昭宏（応旧職）

学年幹事

昭和 20 年	森　久雄	昭和 48 年	中澄博行	平成 11 年	奥村康之
昭和 22 年	押方頼明	昭和 49 年	伊丹芳徳	平成 12 年	安達典明
昭和 23 年	―	昭和 50 年	井口義男	平成 13 年	前田壮志
昭和 24 年	―	昭和 51 年	水谷　潔	平成 14 年	池下敬一郎
昭和 25 年	井上泰輔	昭和 52 年	木陰義則	平成 15 年	井狩芳弘
昭和 26 年	上原巳芳	昭和 53 年	畑中一成	平成 16 年	山口恒平
昭和 28 年	―	昭和 54 年	棚橋一郎	平成 17 年	井上佑子
昭和 29 年	―	昭和 55 年	高橋英雄	平成 18 年	吉村　彩
昭和 30 年	井上博夫	昭和 56 年	仲　敏男	平成 19 年	跡部真吾
昭和 31 年	濱田　尚	昭和 57 年	藤田　実	平成 20 年	松井康哲
昭和 32 年	江口晴一郎	昭和 58 年	武田英昭	平成 21 年	瀬良俊樹
昭和 33 年	遠藤　彰	昭和 59 年	山中敏央	平成 22 年	浅田直哉
昭和 34 年	鈴木信夫	昭和 60 年	松田厚範	平成 23 年	酒井敦史
昭和 35 年	竹田侑弘	昭和 61 年	飯田俊哉	平成 24 年	川上　潤
昭和 36 年	杉本　晃	昭和 62 年	森馬　洋	平成 25 年	安藝翔馬
昭和 37 年	成戸謙吉	昭和 63 年	勝田修之	平成 26 年	佐藤悠樹
昭和 38 年	角岡正弘	平成元年	森本恵治	平成 27 年	乙山美紗恵
昭和 39 年	上原　赫	平成 2 年	忠永清治	平成 28 年	青木優太
昭和 40 年	中原武利	平成 3 年	八木繁幸	平成 29 年	足立里菜
昭和 41 年	黒田徳幸	平成 4 年	松岡雅也	平成 30 年	有薗春香
昭和 42 年	植嶋陸男	平成 5 年	市橋祐一	平成 31 年	冨永拓也
昭和 43 年	八尾俊男	平成 6 年	岡本健司	令和 2 年	藤田侑志
昭和 44 年	安部　巌	平成 7 年	林　晃敏	令和 3 年	赤木裕哉
昭和 45 年	―	平成 8 年	舘　秀樹	令和 4 年	青柳祐香
昭和 46 年	高山裕一	平成 9 年	竹内雅人	令和 5 年	飯嶋　陸
昭和 47 年	木原康夫	平成 10 年	浅川朋命	令和 6 年	古池裕太

※学年幹事を交代された場合には、編集担当までご一報下さい。

庶務幹事　井上 博史（現職/G4）　・樋口 栄次（博応 H14）
会計幹事　八木 繁幸（工応 H03/G6）・小玉 晋太朗（修応 H20）
会計監査　久本 秀明（現職/G1）　・椎木　弘（現職/G9）

令和５年度応化会会計・監査報告

令和５年度応化会決算報告

令和５年４月１日～令和６年３月 31 日

繰越・収入の部（円）

＜繰越＞	
・令和４年度からの繰越金	6,894,433
ゆうちょ銀行定額貯金：2,061,047	
ゆうちょ銀行普通預金：4,781,258	
紀陽銀行普通預金　：46,837	
現金　：5,291	
＜収入＞	
・応化会終身会費（応化事務領収，B4～D3 学生 65 名，教員１名）	660,000
・応化会終身会費（校友会領収，51 名分，手数料減額 440 円含む）	509,560
・大阪公立大学校友会からの補助金	100,000
・寄付金（昭和 38 年度卒業生同窓会，代表泉田章一様より）	48,295
・ゆうちょ銀行定額預金利息税額差し引き分	175
・ゆうちょ銀行普通預金利息税額差し引き分	42
・図書カード未使用分	5,000
計	8,217,505

支出・繰越の部（円）

＜支出＞	
・応化賞　賞品（図書カード）購入費（¥5,000×11 名）	55,000
・けみすと 45 号 応化創立 80 周年記念特別号	
発行費	1,064,673
手数料	880
・総会・応化創立 80 周年記念講演会　開催費補助（講師旅費，謝金，演台花）	46,068
・応化会事務処理用 PC 更新	75,800
・応化会事務処理用 File Maker Pro 2023 更新および手数料	42,460
＜繰越＞	
・令和６年度への繰越金	6,932,624
ゆうちょ銀行定額貯金：2,061,222	
ゆうちょ銀行普通預金：4,811,142	
紀陽銀行普通預金　：46,837	
現金　：8,423	
図書カード　：5,000	
計	8,217,505

令和６年　４月　18 日

会計幹事　池田　浩，松井　康哲

会計監査　林 晃敏 印　原田 教史 印

応　化　会　会　則

（令和 4 年 12 月 10 日改正）

第 1 章　総　　則

第 1 条　本会は「大阪公立大学応化会」と称し、所在地を大阪府堺市中区学園町 1-1 大阪公立大学工学部応用化学科に置く。

第 2 条　本会は会員相互の親睦と連絡を図ることを目的とする。

第 2 章　会　　員

第 3 条　本会の会員は正会員、学生会員および特別会員をもって構成する。

正会員　大阪公立大学工学部応用化学科卒業生、大阪公立大学大学院工学研究科物質化学生命系専攻応用化学分野の博士前期または博士後期課程修了生、大阪府立大学工学域物質化学系学類応用化学課程卒業生、大阪府立大学（旧浪速大学）工学部応用化学科および機能物質科学科卒業生、大阪府立大学（旧浪速大学）大学院工学研究科応用化学専攻の修士（博士前期）または博士（博士後期）課程修了生、大阪府立大学大学院工学研究科物質系専攻応用化学分野・機能物質科学分野および物質・化学系専攻応用化学分野の博士前期または博士後期課程修了生、旧大阪府立化学工業専門学校の化学工業科、燃料科、ゴム工業科、専修科卒業生および旧大阪工業専門学校応用化学卒業生。

学生会員　大阪公立大学工学部応用化学科在学生、大阪公立大学大学院工学研究科物質化学生命系専攻応用化学分野の博士前期または博士後期課程在学生、大阪府立大学工学域物質化学系学類応用化学課程在学生、大阪府立大学工学部応用化学科在学生および大阪府立大学大学院工学研究科物質・化学系専攻応用化学分野の博士前期または博士後期課程の在学生。

特別会員　大阪公立大学工学部応用化学科の現教職員および旧教職員、大阪府立大学工学域物質化学系学類応用化学課程の現教職員および旧教職員、大阪府立大学工学部応用化学科の旧教職員および機能物質科学科の旧教職員、旧大阪府立化学工業専門学校の化学工業科、燃料科、ゴム工業科および旧大阪工業専門学校応用化学科の教員。

第 3 章　役　　員

第 4 条　本会には次の役員を置き、役員の任期は 1 年とする。ただし再選を妨げない。

(1) 会長 1 名、副会長 1 名、常任幹事若干名、学年幹事若干名、庶務幹事 2 名、会計幹事 2 名、監査委員 2 名。
(2) 会長は幹事の互選による。
(3) 副会長は、応用化学科学科長がこれに当たる。
(4) 常任幹事は正会員、学生会員および特別会員から、推薦により選出される。
(5) 学年幹事は各期 1 名が推薦により選出される。ただし専門学校においては若干名が推薦により選出される。
(6) 庶務幹事および会計幹事は応用化学科の現職教授および当該研究グループの教員がこれに当たり、2 期務めることを原則とする。
(7) 監査委員は幹事外から、会長がこれを委嘱する。

第 5 条　役員の職務は次の通りとする。

(1) 会長は本会を代表し、会務を総理し、集会を招集する。
(2) 副会長は会長を補佐し、必要あるときにはその任を代行する。
(3) 常任幹事は本会の事業計画を立案し、会務を処理する。
(4) 学年幹事は各卒業期会員の会務に関して常任幹事、庶務幹事および会計幹事を補佐する。
(5) 庶務幹事は会報“けみすと”の発行、名簿の管理および同窓会の開催などを目的とした希望に応じた名簿の提供を担当する。
(6) 会計幹事は本会の会計業務を担当する。
(7) 監査委員は本会の会計を監査する。

第 4 章　事　　業

第 6 条　本会は次の事業を行う。

(1) 総会を開催する。

(2) 本会の目的達成のため会報“けみすと”を発行する。ただし、会報“けみすと”の発行は別に定める規則による。

(3) 修士論文発表会および卒業論文発表会における最も優秀な発表に対して応化会賞を贈呈する。

(4) その他本会の目的に関する事業を行う。

第 5 章　集　　会

第 7 条　総会は原則として 4 年に 1 回開催する。

第 8 条　常任幹事会は必要に応じて会長が召集する。

第 9 条　幹事会は本会の役員から構成され、会務の遂行上必要と認めたとき会長が招集する。

第 10 条　総会、常任幹事会および幹事会の議事は出席者の過半数をもって決議する。

第 6 章　会　　計

第 11 条　本会の経費は、会費、寄附金および雑収入をもって当てる。

第 12 条　会費は終身会費として 10,000 円とする。ただし、必要あるときには臨時会費を徴収することとし、その場合には幹事会の承認を得るものとする。

第 13 条　会費は入会時に納入することを原則とする。

第 14 条　会計年度は毎年 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終わる。

付　　則

1. この会則の改正は原則として総会の決議をもって行なう。
2. この会則は令和 4 年 12 月 10 日より発効する。

会報“けみすと”発行規約

（令和 4 年 12 月 10 日改正）

第 1 章　総　　則

第 1 条　会報“けみすと”は「大阪公立大学応化会」の事業の一環として発行する。

第 2 条　会報“けみすと”は会員相互の親睦と連絡を図ることを目的とする。

第 3 条　会報“けみすと”の発行は庶務幹事がこれに当たる。

第 2 章　会報“けみすと”

第 4 条　会報は“けみすと”と称する。

第 5 条　会報“けみすと”は原則として毎年発行する。

第 6 条　会報“けみすと”は会員に頒布する。

付　　則

1. この規約の改正は原則として幹事会の決議をもって行なう。
2. この規約は令和 4 年 12 月 10 日に発効する。

会報“けみすと”の号数と発行年との対応表

“けみすと”の号数	発行年	“けみすと”の号数	発行年
1	1964	25	2003
2	1965	26	2004
3	1966	27	2005
4	1967	28	2006
5	1967	29	2007
6	1968	30	2008
7	1970	31	2009
8	1972	32	2010
9	1974	33	2011
10	1976	34	2012
11	1978	35	2013
12	1980	36	2014
13	1982	37	2015
14	1984	38	2016
15	1986	39	2017
16	1987	40	2018
17	1989	41	2019
18	1992	42	2020
19	1994	43	2021
20	1997	44	2022
21	1999	45	2023
22	2000	46	2024
23	2001	47	2025
24	2002		

会員の皆様へ

令和 6・7 年度応化会庶務幹事　井上博史・樋口栄次

1. 電子化のご案内と電子メール連絡のお願い

応化会は、2012（平成 24）年度幹事会ならびに総会の決定に従い、（１）連絡方法の電子化、および（２）応化会会報“けみすと”の公開方法の電子化、を行います。いずれもインターネットを用いるもので、詳しくは下記の説明をご覧下さい。これらは、長年検討されてきた経費削減・省力化・データ保存などの問題を解決する案件であり、昨年度ようやく実施決定の決議に至りました。会員の皆様のご理解とご協力をお願い致します。

なお、インターネットをお使いにならない方々には、従前通り郵送等にて、連絡と会報“けみすと”の送付を行います。これをご希望の方は、本誌折り込み葉書にてその旨をご連絡ください。

ご連絡が無い場合には、当面は葉書や封書で案内を差し上げ、メールアドレスの収集のご協力のお願いを引き続き続けます。しかし、最終的にご連絡が無い場合には、会報“けみすと”がお手元に届かなくなる事態もありますので、ご注意下さい。

もし、ご不明な点がありましたら、庶務幹事までお問い合わせください。

（１）連絡方法の電子化

従前、応化会から会員の皆様への連絡は、葉書や封書の郵送等の方法を主としており、電子メールはあまり使って参りませんでした。今回これを改め、平成 25 年度より原則として電子メールで連絡等をお送りします。

（２）応化会会報“けみすと”の配付方法の電子化

従前、応化会から会員の皆様への会報“けみすと”の配付は、冊子体の送付のみで行って参りました。今回これを改め、2015（平成 25）年度から原則として、ホームページ上で公開します。個人情報保護の観点から“けみすと”の閲覧にはパスワードを設け、これを電子メールでお知らせします。

なお、応化会創立後 10 年ごとに発行しています記念号につきましては、原則として希望の有無にかかわらず冊子体をお送りする予定です。

これに伴い、会員の皆様に電子メールによる応化会への連絡をお願い致します。**①氏名、②自宅住所、③自宅電話番号（携帯電話番号も可）、④勤務先名、⑤卒業・修了年（学部・修士・博士）、⑥卒業・修了大学（学科）［府大（応用化学・機能物質科学）、化工専（化学工業・燃料・ゴム専修）、大工**

専（応用化学）]、⑦出身研究室、⑧その他お気づきの点、をお書きの上、**応化会（gr-eng-ohkakai@omu.ac.jp）宛に電子メールをお送りください。**これをもって会員の皆様の電子メールアドレスの収集とさせて頂きます。なお、これらの情報は従前どおり、個人情報保護に関する法律の趣旨に則って応化会から会員の皆様への連絡にのみに使い、それ以外の目的には使いません。

２．会員情報の変更の連絡

電子メールアドレスや住所など、会員情報の変更の際は、必ず応化会にご連絡ください。前頁でのお知らせの通り、基本的に連絡は電子メールで受け付けます。電子メールを利用されない方々は、本誌折り込み葉書をご利用ください。その他、同級生、研究室の先輩・後輩など、他の会員についてもの情報が分かりましたら、お知らせ頂けると幸いです。

３．会員情報の利用

平成 17 年度幹事会での決定に基づき、現在は会員名簿を発行していません。しかし、クラス会の企画などで特定の会員情報が必要な場合には、ご相談ください。所定の手続きを経た後、該当部分のデータをお渡しします。

４．会報“けみすと”の原稿の募集

応化会では、会報“けみすと”の原稿を随時募集しています。クラス会の報告、案内だけでなく、受賞（章）など、どんな記事、ニュースでも結構です。

Microsoft Word®形式のテンプレートファイルが応化会ホームページからダウンロードできますのでお使いください。原稿は原則として写真・図を含めて 1～2 枚（800 字程度）でご作成ください。手書きや印刷済みの原稿でも構いません。なお、クラス会の報告の際は、卒業年、開催日時、場所、参加者数もお忘れなくご記載ください。

【応化会の連絡先】
〒599-8531 大阪府堺市中区学園町 1-1
大阪公立大学 工学部 応用化学科
応化会庶務幹事
電子メール：**gr-eng-ohkakai@omu.ac.jp**
ホームページ：https://ohkakai.com/
電話（兼ファックス）：072-254-9910（応化事務室）

編集後記

編集責任者
令和 6・7 年度応化会庶務幹事
井上　博史

「けみすと」第 47 号をここにお届け致します。

大阪公立大学が誕生してから 3 年が過ぎ、大阪公立大学 1 期生も 4 月から 4 年間の集大成である卒業研究に取り組みます。幸いにも大学や研究室の運営はコロナ前に戻り、修士論文発表会、卒業論文発表会、博士論文公聴会も特別な対応はせずに実施しました。

学位記授与式の日（令和 7 年 3 月 24 日）の夕刻、5 年ぶりに応用化学教室謝恩・祝賀会をホテル アゴーラ リージェンシー 大阪堺に於いて開催しました。多くの修了・卒業生が参加し、応化会会長、辰巳砂先生ならびに応用化学科の教員と歓談しました。限られた時間でしたが楽しいひとときを過ごし、修了・卒業生にとっても思い出に残る日になったのではないかと思います。

令和 6 年 12 月に会員の皆様に電子メールでご案内しました通り、応化会のホームページを一新しました。新しいホームページ（https://ohkakai.com/）では、「けみすと」のバックナンバーをすべて電子ファイルとして見ることができます。また、イベント情報も掲載していますので、是非ともご覧ください。

今後とも、会員の皆様の一層のご支援とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

応化会会報「けみすと」第 47 号　令和 7 年 3 月 31 日
発行者　大阪公立大学応化会
〒599-8531 大阪府堺市中区学園町 1 番 1 号
大阪公立大学 工学部 応用化学科
電話（兼ファックス）: 072-254-9910（応化事務室）
発行責任者　井上　博史
印刷所　株式会社シンメイ社